第６学年　社会科　学習指導案

１　単元名「　幕府の政治と人々の暮らし　」

２　単元の目標

○　江戸幕府が政治を行った頃について，遺跡や文化財，地図や年表などの資料で調べ，まとめることを通して，参勤交代，鎖国などの幕府の政策，武士を中心とした身分制などにより，武士による政治が安定したことが分かる。【知識及び技能】

○　江戸幕府が政治を行った頃について，参勤交代，鎖国などの幕府の政策，武士を中心とした身分制などを関連付けたり総合したりすることを通して，その意図や世の中の様子，我が国の歴史の展開を考え，文章で記述したり説明したりすることができる。【思考力，判断力，表現力等】

○　参勤交代，鎖国などの幕府の政策，武士を中心とした身分制について，学習課題の解決に向けて主体的に追究しようとする態度を養う。【学びに向かう力，人間性等】

３　単元の構想について

今年度の市小研社会部の研究は，児童の問題解決力を単元を通して高めるために行われる。それは，単元を貫く学習課題と課題解決に向けた見通しにもとづいた１単位時間の課題解決が繰り返されることによって高められる。そのため，単元の始めにおいて，単元を貫く学習課題解決に向けて既習事項とつなげて予想を立てておかなければならない。

しかし，これまでの授業では，１単位時間の始めに「今日は何を学習するのですか？」とつぶやく児童が多くいた。そのような児童を分析すると，単元の始めに既習事項とつなげた予想を立てられていないことが分かった。

この原因は，児童にもたせてきた見通しが１単位時間の課題解決につながるものでしかなく，単元を貫く学習課題の解決につながる見通しではなかったことにあると考えられる。

そこで，児童が単元の始めにおいて，既習事項とつなげて予想を立てられるようにするために，単元の１時間目を工夫し，複数時間かけて課題解決を繰り返す単元型の授業を構想した。

これにより，児童は単元の始めに既習事項とつなげて立てた予想にもとづいて，１単位時間の課題解決を繰り返すことで問題解決力を高められると考えた。

４　指導計画（全８時間）

時	ねらい
１本時	江戸幕府が政治を行った頃について，武家政権の各時代と江戸時代の長さを比較し，武家政権の各時代の政策を想起することを通して，単元を貫く学習課題を設定し，江戸幕府が行った政策を既習とつなげて予想することで，これから進んで調べようとしている。 単元を貫く学習課題 江戸時代は，なぜ２６５年間も長く続いたのか。江戸幕府は，一体何をしたのか。

2・3	江戸幕府が行った政策について，立てた予想をもとに参勤交代や大名の配置，武家諸法度などを調べて確かめることを通して，幕府が大名を抑えていたことが分かる。 学習課題 江戸幕府は，どのようにライバルを抑えたのか。 まとめ 大名にお金を使わせたり，外様を江戸から離れたところに置いたりして，幕府が大名の力を抑えていた。
4・5	江戸幕府が行った政策について，立てた予想をもとに五人組の仕組みや慶安の御触書などを調べて確かめることを通して，幕府が武士を中心とした身分制を定着させたことが分かる。 学習課題 江戸幕府は，どのように人々を治めたのか。 まとめ 武士を支えるために，百姓や町人に様々な負担を負わせたり制限を設けたりした。
6・7	江戸幕府が行った政策について，立てた予想をもとに鎖国や一部の外国との交流の様子などを調べて確かめることを通して，幕府が外国の情報や貿易の利益を独占したことが分かる。 学習課題 江戸幕府は，外国とどのようにかかわったのか。 まとめ 貿易の相手をキリスト教を広めない国に限り，一部の国と交流して情報や利益を得ていた。
8	江戸幕府が政治を行った頃について，これまでに調べて分かった江戸幕府の政策を関連付けたり総合したりすることを通して，参勤交代，鎖国，武士を中心とした身分制などを進めたことにより，武士による政治が安定したことが分かる。 単元を貫くまとめ 江戸幕府が２６５年も長く続いたのは，参勤交代などのライバルへの政策，武士を支えるための身分制を定着させた市民への政策，鎖国などの外国への政策を進めることで，大名や町人，百姓を治め，世の中を安定させていたからだ。

２～７時間目については，各グループが立てた予想をそれぞれが解決するために自由に調べてまとめる単元内自由進度学習の時間とする。また，本単元は江戸幕府の政策を学習内容の中心としているため，次の単元「新しい文化と学問」において，町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを学習する際に民衆の立場についても学習する。

５　本時について（１時間目／全８時間）

（1）ねらい

江戸幕府が政治を行った頃について，武家政権の各時代と江戸時代の長さを比較し，武家政権の各時代の政策を想起することを通して，単元を貫く学習課題を設定し，江戸幕府が行った政策を既習とつなげて予想することで，課題解決の見通しをもつことができる。

（2）本時の構想

これまでの歴史の学習では，遺跡や文化財，地図や年表などの資料を提示し，気付いたことや思ったこ

とを出し合う中で学習課題を設定して，予想したり，調べたり，考えたりさせながら指導してきた。児童に行ったアンケート調査では，本学級の児童は，歴史の学習を楽しみ，学習内容を理解していると全員が自己評価していた。

しかし，学習課題に対して予想を書くことができると自己評価した児童は１／３に止まり，課題解決につながる予想を書くことができる児童は少なかった。そのため，予想を立てながら調べ，主体的に追究している姿は少なかった。これは，考えのもととなる既習とつなげて考える働き掛けが欠けていたことが原因だと考えられる。

そこで，児童一人一人が学習課題に対して既習とつなげて予想を立て，その後主体的に調べたり考えたりして追究していくことができるようにするために，以下のような手立てを講じる。

①　見通しをもたせる場面で目指す児童の姿

見通しをもたせる場面で目指す児童の姿を次のように規定し，学習課題設定後の場面において，児童に以下のような姿が見られることを目指す。

江戸幕府が行った政策について，「秀吉は刀狩で武士と農民の身分差をはっきりさせていたから，江戸幕府も武士がよりえらい身分とさせることによって人々を治めたのではないか」「頼朝が将軍と御家人の御恩と奉公の関係によって武士をまとめたように，幕府もライバルの大名を従えたのではないか」などと，「ライバルへの政策」「市民への政策」「外国への政策」の中で武士が行った政策にかかわる既習とつなげて予想し，これから調べる事柄を定める姿

②　見通しをもたせる場面における構想

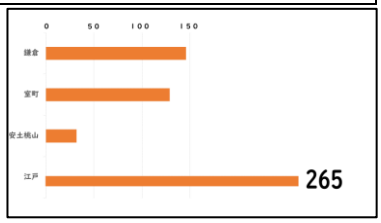
児童はこれまでに，武家政権が行ってきた政策がだれ（どこ）に向けて行われた政策なのかという政策対象の視点を身に付けている。具体的には，将軍と御家人が御恩と奉公の関係を結んだことや守護を配置したことなど武士に対する政策を「ライバルへの政策」，地頭を配置したことや刀狩，検地など武士以外の人々に対する政策を「市民への政策」，元との戦いや日明貿易，キリスト教の保護など外国に対する政策を「外国への政策」と分類したものである。（以下教科書や資料集にある記述より抜粋）

	ライバルへの政策	市民への政策	外国への政策
鎌倉	御恩と奉公の関係 御成敗式目 守護の配置	地頭の配置	元との戦い 防塁 異国警固番役
室町			日明貿易
安土桃山	鉄砲の使用 仏教勢力の抑え込み	楽市・楽座 関所を撤廃 検地 刀狩	キリスト教の保護 南蛮貿易 朝鮮に大軍を送る

江戸	武家諸法度 大名の配置 参勤交代	身分制 五人組 慶安の御触書	キリスト教の取り締まり 鎖国

本時までに，江戸幕府が行った政策により，武士による政治が安定したことは学習していない。このような児童に，次のように働き掛ける。

【手立て１】
武士が政治を行った時代の長さを表したテープ図（資料１）と武士が行った政治の様子を表した資料（資料２）を提示し，今考え始めていることと，これから考えたいことを問う。



これまでの武家政権の各時代と江戸時代の長さを比較して問いをもたせ，江戸幕府が武士の政治を安定させるために行った政策を考え始めさせ，単元を貫く学習課題を設定するための手立てである。

まず，武士が政治を行った時代の長さを表したテープ図（資料１）を提示する。このとき，武士が行った政治の様子を表した資料（資料２）も合わせて提示する。これが，児童一人一人が予想する際の手掛かりとなる。

源頼朝	北条政子
	北条泰時
足利義満	足利義政
織田信長	豊臣秀吉

ライバル対策	人々対策	外国対策
関係をつくる きまりをつくる とりしまる	自由に商売させる 武器を取り上げる 年貢を納めさせる	備える 戦う 貿易をする キリスト教を保護する

児童は，これまでの武家政権の各時代と江戸時代の長さを比較してずれを感じ，「なぜ江戸時代は２６５年間も長く続いたのだろう」などと問いをもち，「江戸幕府が何か行ったのではないか」などと考える。このような児童に，今考え始めていることを問う。

児童は，「きまりをつくった」「周りの大名の力を抑えた」「幕府だけが豊かになるようにした」などと考える。このとき，児童が挙げたことを板書で明確化して共有させる。これも，児童一人一人が予想する際の手掛かりとなる。

このような児童に，これからみんなで考えたいことを問う。児童は，「江戸時代は，なぜ２６５年間も長く続いたのか」「江戸幕府は，一体何をしたのか」と学習課題を設定する。

このような児童に，次のように働き掛ける。

【手立て２】
武士が行った政治の様子を表した資料（資料２）や板書事項を手掛かりにして，児童一人一人の予想を問う。

学習課題について，既習とつなげて児童一人一人の予想を促すための手立てである。

学習課題を設定した児童は，江戸幕府が行った政策を考え始める。ここで，児童一人一人の予想を問う。児童は，武士が行った政治の様子を表した資料（資料２）や板書事項を手掛かりに，「幕府が大名を従える仕組みをつくった」「幕府が外国との貿易の利益を独占できるようにした」「幕府が人々を治めるきまりをつくった」などと江戸幕府が行った政策を考える。

このような児童に，次のように働き掛ける。

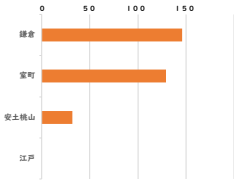
【手立て３】
グループ内で児童の予想を発表させ，これから調べる事柄を問う。

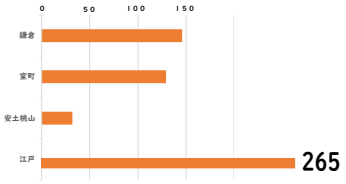
学習課題について，グループの児童全員の予想をもとに，これから調べる事柄を定めるための手立てである。

学習課題に対して予想を立てた児童は，他の児童の予想を考え始める。ここで，グループで活動す

るよう指示し，グループ内で児童の予想を発表させ，これから調べる事柄を問う。児童は，グループ全員の予想を分類したり，取捨選択したり，新たに考えたりして，調べる事柄を定める。ここで，いくつかのグループの調べる事柄を発表させる。児童は既習の分類の仕方とつなげて，「ライバルへの政策の戦国大名に対すること」「市民への政策の税に関すること」「外国への政策の貿易に関すること」などと調べる事柄を考える。こうして，江戸幕府が行った政策について，武士が行った政策にかかわる既習とつなげて予想し，調べる事柄を定める姿になる。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと 予想される児童生徒の反応	■評価・○留意点
1　これまでの武家政権の各時代と江戸時代の長さを比較し，武家政権の各時代の政策を想起することを通して，単元を貫く学習課題を設定する。 （１５分）	【手立て１】 Ｔ１：今から４つの時代を見せます。共通することは何ですか？ Ｃ１：鎌倉，室町，安土桃山，江戸か。何だろう。 Ｃ２：武士が政治を行った時代だ！ Ｔ２：正解です。どれも武士が政治を行った時代です。では，一番長さが短いのはどの時代だと思いますか？ Ｃ３：戦国時代のすぐ後だから，安土桃山時代は短いはずだ！ Ｃ４：室町時代は文化の学習だったから平和で長く続いていそう！ Ｃ５：鎌倉時代は武士の政治が始まった時代だったからまだ安定はしていない気がする！ Ｃ６：これまでの武士が政治を行った時代は，長くて１５０年くらいなんだね！ Ｃ７：やっぱり安土桃山時代は短い！ Ｃ８：江戸時代はどうなのだろう。 Ｔ３：それぞれの時代で武士が行ってきた政策を「ライバルへの政策」「市民への政策」「外国への政策」とまとめて呼んでいましたね。実は，これから学習する江戸	○鎌倉，室町，安土桃山江戸の４つの時代の名前を提示する。 ○「なぜ短いと思ったのか。」理由を問い返す。 ○短い時代から順に，テープ図を伸ばしながら各時代の長さを提示する。  ○「どのようなことがあった時代か。」と既習の想起を促す。 ○武士が行った政治の様子を表したイメージ図を提示する。 源頼朝　北条政子 北条泰時 足利義満　足利義政 織田信長　豊臣秀吉 ライバル対策：関係をつくる，きまりをつくる，とりしまる 人々対策：自由に商売させる，武器を取り上げる，年貢を納めさせる 外国対策：備える，戦う，貿易をする，キリスト教を保護する

	時代はこのくらい続いたのです。 C９：えー！２６５年も続いたんだ！ C10：他の時代と比べて長い！ C11：なぜこんなに長く続いたのだろう。 C12：長く続くように江戸幕府が何かしたのではないかな。 T４：江戸幕府が何かしたと考え始めていますね。どんなことをしていそうですか？ C13：きまりをつくったのだと思う。 C14：周りの大名の力を抑えたのではないかな。 C15：幕府だけが豊かになるような貿易をしたのかもしれない。 T５：なるほどね。一体どんなことをしたのだろうね。これからみんなで考えたいことは何ですか？ C16：江戸時代は，なぜ２６５年間も長く続いたのか。 C17：そのために，江戸幕府は一体何をしたのか。 学習課題 江戸時代は，なぜ２６５年間も長く続いたのか。江戸幕府は，一体何をしたのか。	○児童が見たそうにし始めたら，テープ図を伸ばしながら提示す  ○予想し始めている児童の発言を促し，板書で共有する。
2　江戸時代が長く続いた理由や江戸幕府が行った政策を予想する。（５分）	【手立て２】 T６：江戸時代が長く続いた理由や江戸幕府が行った政策を予想しましょう。 C18：武士と農民のような身分差によって人々を抑えたのではないかな。 C19：御成敗式目のようなきまりが定められ政治の仕組みが整ったのだと思うよ。 C20：将軍と御家人の御恩と奉公のよ	

	うな関係によって幕府がライバルの大名を従えているはずだ。 【手立て３】	
３　予想を分類したり，取捨選択したり，新たに考えたりして，これから調べる事柄を考える。 （２０分）	Ｔ７：みんなが考えた予想を，「ライバルへの政策」「市民への政策」「外国への政策」の３つに分類しましょう。新たに考えてもよいです。 Ｃ21：武士に対するきまりや関係づくりは，周りの大名を抑える「ライバルへの政策」だな。 Ｃ22：税をより多くとったり身分をよりはっきりさせたりすることは，武士以外の人々を治める「市民への政策」になりそう。 Ｃ23：貿易で利益をあげたり外国と仲良くしたりすることは，外国にかかわる「外国への政策」となるはずだ。 Ｔ７：予想が集まってきましたね。他のグループの調べる事柄を見てみましょう。 ※Ｃ21～Ｃ23 のような予想を全体で共有する。 Ｔ８：では次の時間からこれらのことを各班ごとに調べていきましょう。 Ｃ24：次の時間はぼくたちは周りの大名を抑える「ライバルへの政策」をしたのか，どんな政策だったのか調べたい！ Ｃ25：江戸時代が長く続いた理由や江戸幕府が行った政策をはっきりさせよう！	○共有ノートを用いて，グループで考えるよう指示する。 ○グループの共有ノートの画面を黒板にミラーリングし，いくつか提示する。
４　学習の振り返りをする。 （５分）	Ｔ９：これから調べてみたいこと，どこからそのように考えたのかを書いて，今日の学習を振り返りましょう。	

	C 26：私はどのような「ライバルへの政策」をしていたのか詳しく調べたいです。鎌倉幕府が御成敗式目をつくったように，江戸幕府も大名を抑えるためのきまりを定めたことで争いのない世の中をつくったのではないかと思ったからです。	■江戸幕府が行った政策を予想し，これから調べようとする意欲を文章で具体的に記述している。 【学びに向かう力，人間性等】 ＜振り返りの記述＞

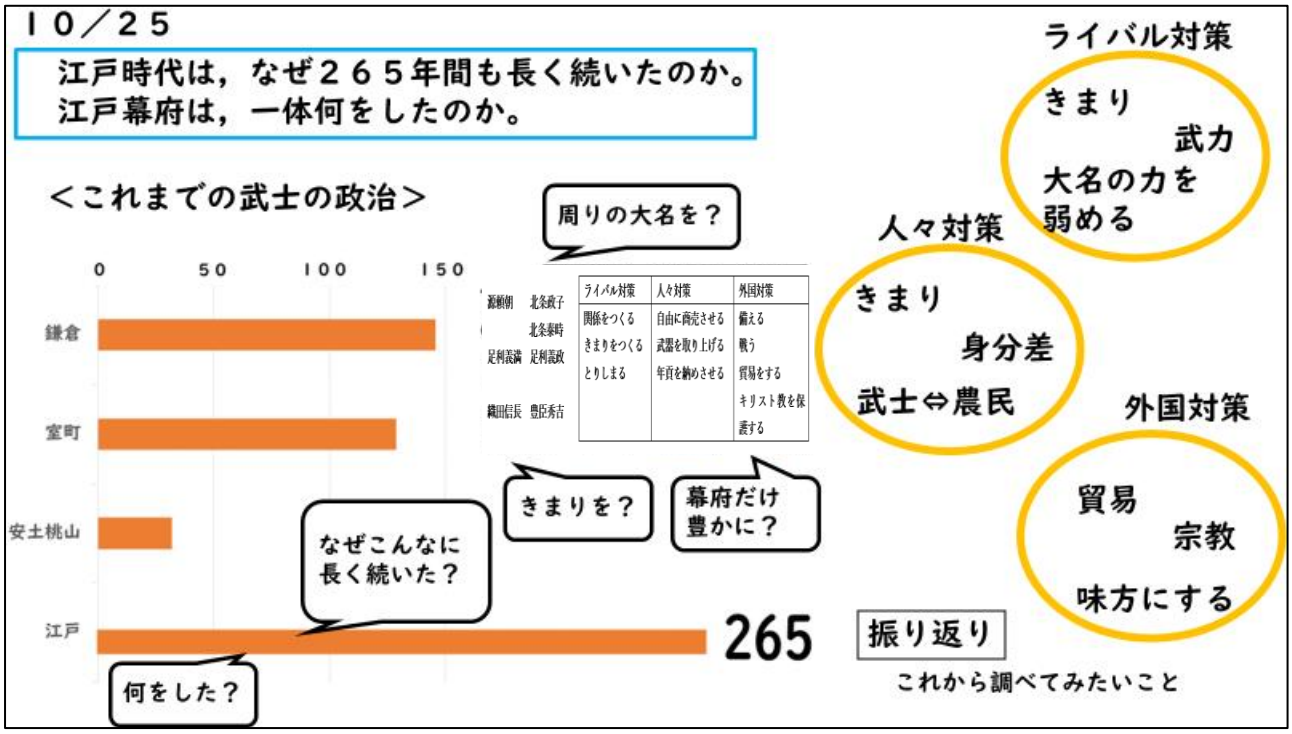
（4）本時の評価

①評価方法：　振り返りの記述

②評価規準：　江戸幕府が行った政策について既習事項をもとにして調べる事柄を決めている。

【例】

○　鎌倉時代の御恩と奉公の関係のようなものをつくって他のライバル大名が幕府に反抗できないようにしたのではないかと思うので，これから調べたい。

○　武士と他の人々の身分差をよりはっきりさせて人々を治めたはずなので，調べて確かめたい。

（5）板書計画